

令和3年度サッポロサタデースクール事業実施方針

1 目標

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、令和2年度の実施校が大幅に減少したことから、令和3年度においては令和元年度実績までの原状回復に努めることを最優先としたうえで、今後も実施校の拡大を目指していく。

※参考：実施状況

令和2年度：12校 12 運営協議会（内定校：43校 39 運営協議会）

令和元年度：47校 41 運営協議会

2 運営協議会の選定について

(1) 実施予定数

51 団体以内（A P 上の令和3年度目標数）

(2) 選定方法

実施を希望する運営協議会より、実施申請兼運営計画書の提出を受け、選定を行う。

(3) 選定基準

- ア 教職員やP T Aなど学校関係者と、学校周辺の地域で子どもの育成やまちづくり等に係る団体・個人が参画していること
- イ プログラムの企画・運営の中核を担い、構成員や関係者との連絡調整を緊密に行うことができる人材（コーディネーター予定者）が確保されていること
- ウ 地域や学校の特色を生かし、子どもたちが充実した休日を過ごせるプログラムの企画が期待できること
- エ プログラムの企画・運営を通して、地域と学校の連携・協働の推進が期待できること

3 事業の推進に係る取組について

(1) 新規実施・継続のしやすさを考慮した委託条件等の緩和

運営協議会が継続して活動できることにより、地域と学校の連携・協働の推進が図られるよう、委託条件を緩和する。

ア プログラム実施回数の緩和

従来、原則として3回以上としていた実施回数下限を見直し、1回から取り組めることとする。

イ 年度途中からの委託契約対応

運営協議会の希望に応じて、年度途中契約に随時対応する。

(2) 実施拡大に向けた取組

学校や地域に対して、事業の認知度向上を図る取組を行う。

ア 学校への働きかけ

個別訪問して実施に向けた働きかけや周知を行うとともに、地域連携の取組や課題などの現況調査を併せて実施する。

イ 地域への働きかけ

事業に対する認知度を向上させるため、地域と学校をつなぐ役割を担うPTA等へPRチラシの配布により、普及啓発を行う。

(3) 運営協議会への活動支援

本事業の要であるコーディネーター及び運営者の資質向上を図る取組を行う。

ア 研修の実施

コーディネーターを始めとする運営協議会構成員を対象に、事業運営に資する研修の機会を設ける。

(ア) 全運営協議会向け

実践事例発表や運営上の工夫等情報交換により、知見を深め、交流を図る

(イ) 新規運営協議会向け

事業概要や委託料の取扱い等を学び、事業趣旨等理解を深める。

イ 市教委職員の派遣

新規運営協議会を中心とした視察を行い、工夫や課題など運営状況を聞き取り、コーディネーターなど運営者の活動の支援となる指導・助言を行う。

ウ 統括コーディネーターの派遣

コーディネーターの人材確保・育成や教職員の負担軽減を目的とし、NPO等市民活動団体の人材派遣を継続する。また、新たな団体の情報収集・発掘を行い、人材の充実を図る。

(ア) 活動内容

コーディネーター業務に係る指導・助言及びコーディネーターの人材確保・候補者提案等

(イ) 派遣先

運営協議会からの希望により派遣先を決定する。

※参考：派遣先状況

令和2年度：新琴似北小、みなみの杜高等支援学校

令和元年度：新琴似北小、みなみの杜高等支援学校

平成30年度：新琴似北小、西園小（スポット）【試行】

エ 情報発信の充実

企画や運営の参考情報の提供や、普及啓発を図るための情報発信を行う。

(ア) 広報紙の発行

取組内容や運営の参考情報などを掲載した広報誌「サタデースクール通信」等を引き続き発行する。

(イ) ホームページへの実践事例の掲載

実施したプログラム情報は、運営協議会や新規実施を検討する者など広く入手しやすいように札幌市公式ホームページに引き続き掲載する。